福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書 10 月分

氏名：高橋大輔

留学先：ヴィリニュス大学 / リトアニア

こんにちは。リトアニアのヴィリニュス大学に交換留学中の国際地域学部 3 年の高橋大輔です。

以前、ヴィリニュス大学に地元の高校生が数名やってきて一緒に授業を受けていました。日本の大学でもオープンキャンパスの時期には大勢の高校生が大学の授業を体験しますが、少人数で大学生に混ざって英語の授業を受ける制度には新鮮さを感じました。一方で、大学の授業の現実を伝えるという点に関しては高校生のモチベーションを削ぐ要因になりかねないという懸念もあります。

目次

１．カルチャーショック

２．インディアンサマー

## １．カルチャーショック

留学のように中・長期にわたって海外生活をする場合、その移住先の国民もしくは他の国から来た人々に対してカルチャーショックを感じるとよく言われます。カルチャーショックによって相手との不和･衝突が起こりやすくなるといったマイナス面もある一方、違いを受け入れてより広い視野を与えられるといったプラスの側面もあります。私自身もより広い視野を得ることを留学の一つのゴールと設定し、留学生として日々たくさんの文化の違いを感じながらこの数ヶ月を過ごしてきました。しかし実際のところは、異文化に浸りきっていないためなのか、どれも育った国の違いとそこから生じる個人の性格や行動の違いと考えてしまえば取り立てて言及するほどのことではなく、出会う人々は究極的には皆共通してスタンダードな善良であり世界共通の優しさを持った人間という印象です。しかし、この留学で知り合うことができたとある日本人男性の考え方に対して、私はカルチャーショックと言わざるを得ない衝撃を受けています。

かつての古い思想に取って代わって多くの国々によって“正しいもの”として推進されている現代の一般的な思想といえばいくつか思い浮かぶと思われますが、そのうちのいくつかに対して、その男性の考え方は堂々と逆行していました。同じ日本という国で育ち、同じ国際交流に従事してきた者として、当初彼の考え方は非常に理解しがたく衝撃的だったのを覚えています。後日、私は彼がなぜ一般的な思想とは真逆の考え方に至ったのか、その経緯を尋ねて、それについて何日も話し合いました。その結果、彼の考え方は私の考え方とは相容れず、たとえ理解出来たとしても自分自身の考え方として適用することは今後も無いだろうという結論に至りました。ただ、この日本人男性のような急進的な考え方が存在するという事実を身近に知った今、世界の流れと共に多数派を掲げる人達の中にも心の片隅ではそれらの“あるべき”思想とは真逆の考え方に半

ば同意している人もいるのかもしれないと思い始めました。一文にまとめると、“世界が推進している現代の一般的な思想がマジョリティであるならばそれに逆行する考え方はマイノリティである”のではなく、“世界が推進している現代の一般的な思想がマジョリティとして認識されているならばそれに逆行する考え方もまた隠れたマジョリティである”のかもしれないと感じます。

この一連の感情を私はカルチャーショックと名付けましたが、この体験から広い視野を得られたかというとまだ何も答えられず、しこりとして心に残っています。結局のところカルチャーショックとは何なのかさえも未だに分かっていないので、もう少し自分なりに考えてみます。

## ２．インディアンサマー

リトアニアでは10月に入る前後あたりから気温が下がり始めたので、私は極寒とも言われる冬の到来を覚悟していました。ところが、10月中旬になってから突如気温が上昇し、ちょっとでも屋内で時間を使うのが惜しまれるほどの季節外れの暖かさと陽気な天候、そして美しい色とりどりの木々に迎えられ、驚きつつも心癒やされながら過ごしました。この時期はインディアンサマーと呼ばれ、毎年一週間ほど訪れる黄金の秋をリトアニアの人々も楽しんでいる様子でした。

木々を彩る葉の色は、黄・緑・赤ですが、これら三色がちょうどリトアニアの国旗の色で、空の蒼さがEU加盟国であることを象徴する色などと考えてみると、つい数十年前まで支配され続けたリトアニアの歴史について考えてしまいます。

*（1918年2月16日：ロシア帝国からの独立），（1990年3月11日：ソ連からの独立回復）*

ひとつ、このリトアニアの秋で忘れられない記憶があります。とはいえ、「ある日、白髪の女性とすれ違ったときにふと見た彼女の表情がとても綺麗で美しかった」という非常に些細なことですが、リトアニアの“黄金の秋の美しさ”に魅せられたあの瞬間から、彼女のような溢れ出る温かさを持ち寄って生きて、将来、皺の一本一本に自分の生きた証を優しくかたどらせることができたら最高だな、と思うようになりました。

＊インディアンサマーとは全く関係の無い10月30日のイベントの写真＊